

群 教 七	G10 - 01
	令 2. 275 集
	道徳

他者の多様な考えに触れ、 自己のよりよい生き方を考える指導の工夫

一考えが見える、広がる、自分を見つめる

『こころの見広（けんこう）シート』を活用した道徳科の授業を通して一

特別研修員 金井 康朗

I 研究テーマ設定の理由

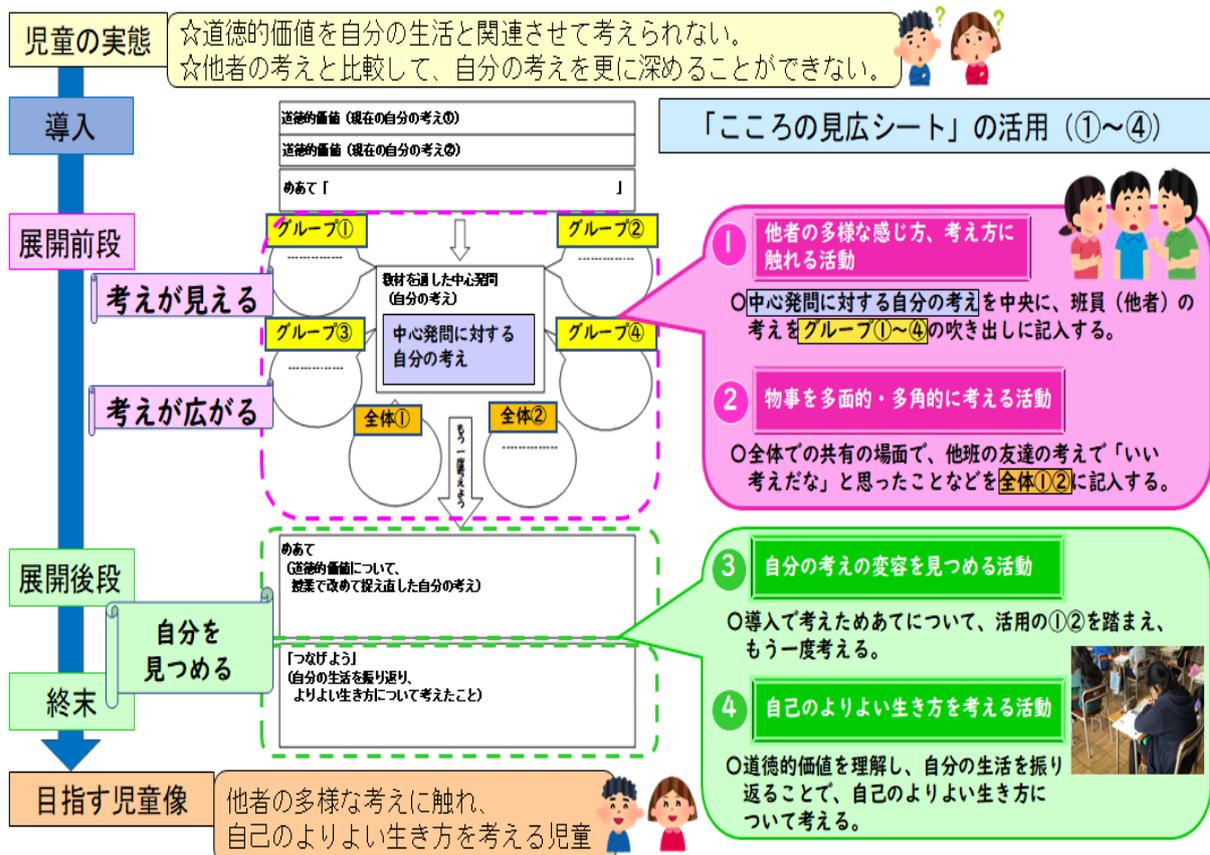
「はばたく群馬の指導プランⅡ」には、道徳性を育てるために「児童生徒が常に自己を見つめながら、他者とともに多様な視点から話し合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていく」とあり、常に自己を見つめることや、他者と多様な視点で話し合うことを求めている。

小学校の道徳科の授業では、教材を基に道徳的価値について捉え、多様な考えに触れることで自己の生き方について考えを深める活動を行っている。しかし、その道徳的価値の理解は、教材の中の出来事として捉えることにとどまり、自分の生活と関連させて具体的に捉えられている児童は少ない。また、教材の中心発問に対して、自分の考えをはっきりとさせ、他者の多様な考えに触れる活動が十分にできていない。

そこで、多面的・多角的な視点から他者と比較して自分の考えを広げ、自己の姿を捉えられるような活動を行う。また、自分の考えを可視化して、生活との関わりの中で見つめ直すことができるワークシートとして「こころの見広（けんこう）シート」（以下「シート」）を活用していく。そして、この「シート」によって、自分の考えの変容に気づき、自己のよりよい生き方について考えられるようにしていきたい。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

自己のよりよい生き方について考えるためには、道徳的価値の理解について、他者の多様な感じ方、考え方に触れることで自分の考えを客観的に捉え、これからのよりよい生き方について深く見つめられるようにする必要がある。そこで、「シート」を活用した、以下の四つの活動を行う。

活用①② 他者の多様な感じ方、考え方に触れ、物事を多面的・多角的に考える活動【展開前段】

- ・ 中心発問に対する多様な考えに触れる「シート」の活用（活用①）
- ・ 考えを広げ、比較する「シート」の活用（活用②）

活用③④ 自己を見つめ、よりよい生き方について考える活動【展開後段・終末】

- ・ 自分の考えの変容を可視化する「シート」の活用（活用③）
- ・ 自分のこれからの生き方について深く見つめて考える「シート」の活用（活用④）

活用①② 他者の多様な感じ方、考え方に触れ、物事を多面的・多角的に捉える活動

物事には様々な見方があることから、多面的・多角的に捉えるために、他者の多様な考えに触れる必要がある。そこで、展開前段の中心発問について考える場面では、3～4人のグループで交流活動を行い、自分の考えに対して、グループの友達（他者）の考えを自分の考えの周囲に書き込む活動を取り入れる。自分の考えを中心に他者の考えを可視化することで、多様な考えに触れることができる（活用①）。また、考えたことの全体共有によって、「いい考えだな」と思ったことや気付いたことを「シート」に記入できるようにし、物事を多面的・多角的に捉えられるようにする。そして、「シート」に記入したことを基に、自分とは異なる多様な考えに触れ、比較して考えることで、自分の考えを広げることができる（活用②）。

活用③④ 自己を見つめ、よりよい生き方について考える活動【展開後段・終末】

授業を通して捉えた道徳的価値の理解から、自分事として「自己のよりよい生き方」につなげていくためには、道徳的価値の理解を第三者的な立場から見つめた自分の姿として、客観的に考えることが必要である。そこで展開後段では、導入で考えたためあてに戻り、活用①②によって「多様な考えに触れて物事を多面的・多角的に考えたこと」を基に、自分の考えがどのように変容したかについて可視化する。このように改めて自分の考えを振り返ることで、客観的に自分自身を捉え直し、自己を見つめることができる（活用③）。また、終末では、授業で捉えた道徳的価値の理解を基に、自分の生活を振り返ることで、これからの自分について考える。そして、自己のよりよい生き方についての考えを深めていくことができる（活用④）。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 「シート」前半の活用①②において、中心発問に対する自分の考えの周りに友達の考えたことや感じたことを記入することで、考えを比較し、物事を多面的・多角的に捉えられる児童が増えた。
- 「シート」後半の活用③④において、導入で考えたためあてについて、もう一度考えることで、客観的に自分自身を捉え直し、自分の考えの変容に気付くことができた。更に自分の生活を振り返らせたことで、よりよい生き方について考えることができた。
- 「シート」の活用を通して、自分の考えや友達の考えを可視化し、自分自身を見つめることで、教材の中の出来事として物事を捉えていた児童が、より自分事として考えられるようになった。

2 課題

- どの学年でも使えるように、実態に合わせて考えを書く量を調節し、「シート」の枠の大きさや構成を自由に変更できるようにする必要がある。
- 展開後段や終末において、よりよい生き方をしっかり考えさせるためには、児童が教材で捉えた道徳的価値の理解について整理できていなければならない。そのためには、展開前段で教師がファシリテーターとなって多面的・多角的に考えさせ、黒板に整理して考えを共有することが必要である。

実践例

- 1 主題名 たがいに高め合いながら 内容項目 B-(10) 友情・信頼 (第5学年・2学期)
教材名 「ドッジボール対決」 (出典: 光村図書「道徳5 きみがいちばんひかるとき」)

2 主題及び本時について

(1) ねらいとする道徳的価値について

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つである。特にこの時期の児童は、友達とよりよい信頼関係を築くことで、切磋琢磨しながら学校生活を送り、お互いに高め合うことができるようになる。そして、友達とよりよい信頼関係を築くためには、まず、お互いに認め合い、その上で協力し、助け合いながら友情を育んでいこうとする心情を育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

この頃の児童は、自分の興味や関心のあることに対して積極的に関わろうとする児童が多く、同じ趣味や嗜好をもった友達同士でコミュニケーションを取る姿が見られる。しかし、仲間が限定的になる傾向があり、時には仲間でも不仲になってしまう場面も見られる。また、友情については「仲がよいこと」と一面的に捉えている児童も少なくない。そこで、多面的・多角的に個人や性別にとらわれず、相互の信頼の下、互いに高め合う友情を育もうとする心情を育てていきたい。

(3) 教材について

本教材は、「ぼく」の所属する5年2組と、仲のよい「都」のいる5年1組でドッジボール対決をする話である。お互いのクラスの団結力を高めるために二人で企画をした対決であったが、2組では「1組に勝つために、1組の子とは対決まで話をしない」というルールができてしまう。本教材を通して、友達との関わりの中で育まれる友情は、相手と気が合ったり、話が合ったりすること以上に、お互いが信頼し合い、高め合うことであることを気付かせたい。

3 本時及び具体化した手立てについて

展開前段では、活用①②として、「シート」を基に多様な感じ方・考え方に触れる活動を行い、考えを可視化して比較することで、物事を多面的・多角的に捉えられるようにする。展開後段では、活用③として、活用①②の活動を通して広がった考えについてめあてに戻り、自分事として考えさせる。終末では、活用④として、これからの自分の生活について客観的に自分自身を捉え直して、自己のよりよい生き方についての考えを深めさせる。そのために、以下の実践を行った。

活用①② 他者の多様な感じ方、考え方に触れ、物事を多面的・多角的に考える活動

考えが見える

- 中心発問に対する自分の考えを中央に、班員の考えを周りの吹き出しに記入して多様な考えに触れる (活用①)。

考えが広がる

- 全体共有の場面で、他班の友達の考えを踏まえて比較させ、物事を多面的・多角的に考える (活用②)。

活用③④ 自己を見つめ、よりよい生き方について考える活動

自分を見つめる

- 導入時に考えためあてについて再考することで、教材で捉えた道徳的価値の理解を、自分事として考える (活用③)。
- 道徳的価値を理解して自分の生活を振り返ることで、客観的に自分自身を捉え直し、自己のよりよい生き方についての考えを深める (活用④)。

考えが見える・広がる ところの見広シート

年 組 名前

「友達」とは
「友情」とは
めあて「 _____ 」

グループ①
グループ②
グループ③
グループ④

「ぼく」はどう思った?

①

全体①
全体②
全体③
全体④

もう一度考えよう

「友達と高め合
友情とは _____」

③

「つなげよう」
○友達と高め合 _____
うに通じます? _____

④

4 授業の実際

導入では、「友達とは自分にとって、どういう人か」という事前アンケートを基に、「友情」についての考えを「シート」に記入した。児童からは、「仲良くすること」や「きずな」など、友達との関係性を表す言葉が、短い表現で出された。

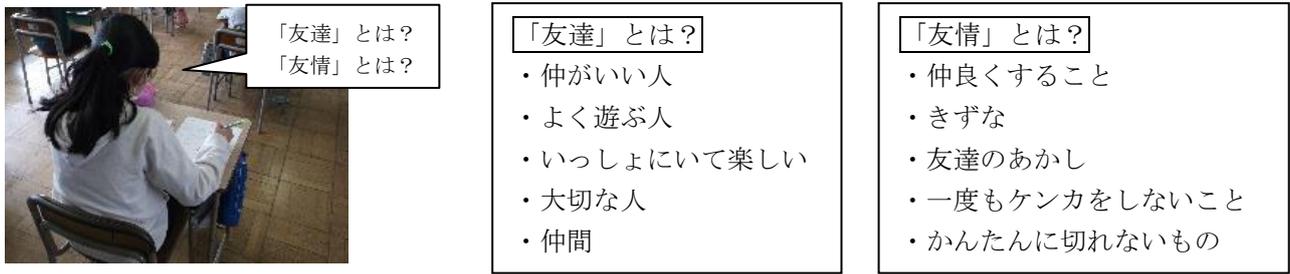


図1 自分の考えをもつ（導入）

「友達とは、仲が良くて、楽しく遊べればよいのか」という問い返しや、「きずな」や「友達のあかし」という抽象的な表現について教師から質問し、友達とどういう関係になることが望ましいのか、という相手意識をもたせた上で「友達と高め合う友情とは」というめあてを設定した（図1）。

活用① 中心発問に対する多様な考えに触れる「シート」の活用

中心発問：「ぼく」の所属する5年2組では、ドッジボール対決まで仲のよい「都」のいる1組の子と話をしないというルールが決まってしまいました。そのことを「都」に話すと、「そんなのって、おかしくない？」と言われました。その時、「ぼく」はどう思いましたか？

次に、展開前段において、「シート」の活用①②「他者の多様な感じ方、考え方に触れ、物事を多面的・多角的に考える活動」を行った。ここでは、まず初めに教材を通した中心発問に対する自分の考えを「シート」の中央に記入し、自分の考えが見えるようにした。そして、3～4人のグループを作り、自分の考えと比較できるようにするため、周りの吹き出しの「グループ①～④」にグループの友達の考えたことなどを書き込んだ（図2）。

授業では、中心発問に対して「このルールはやりすぎだ」と考えた児童が、「シート」を活用して、他者の考えに触れた。その中で、「そんなルールはおかしい」と考えた友達の意見を「似ている意見」、「一度ルールが決まってしまったから、しかたがない」と考えた友達の意見を「違う意見」として、自分の考えと比較しながら考えることができた。その後、この児童は、「ルールを決めるときに、自分が反対しなかったことは悪いが、やっぱりこのルールでは、1組の子と仲が悪くなる」と考えた。

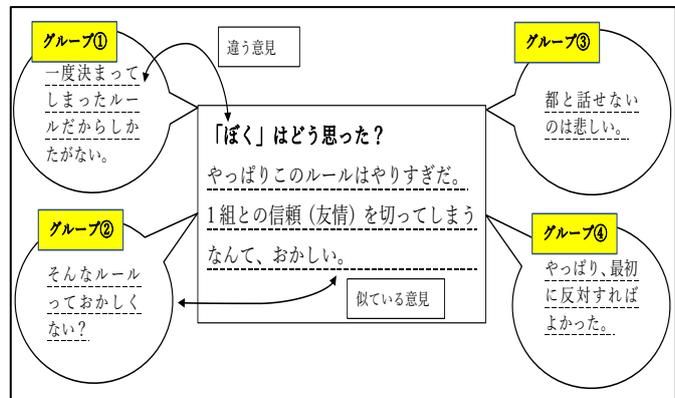


図2 グループの話合いでの記述（展開）

このように多様な感じ方、考え方に触れることで、自分の考えと友達の考えを比較して考えることができた。

活用② 考えを広げ、比較する「シート」の活用

グループでの交流の後に、多面的・多角的に考えるため、全体での共有の場面を設定した。ここでは、数人の児童が話し合ったことを全体で発表した。発表を聞く児童は、他班で話し合われたことの中で、「いい考えだな」と思ったことを「シート」の「全体①・②」に記入した（図3）。授業では、「決まってしまったルールは今さら変えられない」という考えと、「勝負のために友達と話をしないというルールはおかしい」という、二つの考えが大半であった。また、「ルールが友達のためにならないなら、もう一度クラスで話し合えばよい」という考えが出た。このように「みんなが納得するルールについて話し合えばよい」という考えが広がった。



図3 全体共有の場面での記述

全体共有の場面で、教師が黒板を使い、児童から出た「友情」について整理をした。対決に勝つために1組の子と話をしないというルールでは、友達との関係が悪化してしまうことを確認し、友情には信頼関係や相手の気持ちを考えることが大切だという考えを共有した。また、クラスの団結と個人の友情のどちらを取るかという話題に流れないように、登場人物のイラストを用いた関連図を活用することで、友達どうしの友情の問題であることを全体で確認した(図4)。



図4 黒板を活用した全体共有の様子

活用③ 自分の考えの変容を可視化する「シート」の活用

多様な考えに触れ、友情について多面的・多角的に考えた後、展開後段と終末において、「シート」の活用③④「自己を見つめ、よりよい生き方について考える活動」に取り組んだ。

展開後段での活用③では、導入時のめあてに戻り、もう一度「友情」について考えることで、考えの変容に気付かせる活動を行った。変容した考えを可視化することで、教材を通して捉えた「友情」について、より自分事として考えられるようにした。また、相手意識を高めるために、「友達と高め合う友情とは？」という問いを設定した。導入時に友情について「仲良くすること」や「きずな」と考えていた児童が、「おたがいに信頼し合い、協力すること」や「勝ち負けを考えずに、おたがいががんばること」など、相手のことを思いやる考えに変容していく様子が見られた。

活用④ 自分のこれからの生き方について深く見つめて考える「シート」の活用

終末での活用④では、振り返りとして、授業で捉えた道徳的価値に関わる事象をこれからの生活でどのように実現していこうとするかを考えた。具体的には、「友達と高め合うため、どのように過ごす？」という問いを設定した。この問いに対して、「相手の気持ちを考える」など、相手を意識した記述や、「信頼関係を築く」などと、友情について自分の生活と関連させ、これからの生活をよりよくしていくためにどうしたらよいかについて、客観的に考えて具体的に表現(図5 部)することができた。

「つなげよう」
友達と高め合うため、どのように過ごす？

- ・ 困難があっても支え合い、はげまし合いながら過ごす。
- ・ 相手の気持ちを考えながら、困っていた時は助ける。
- ・ 友達にやさしく接し、助け合って過ごす。
- ・ 相手にとってどういうことがよいのかを考え、相手をきずつけることをしない。
- ・ 相手のよいところをほめて、信頼し合う。
- ・ 相手と信頼関係を築いていきたい。

図5 「つなげよう」の記述(終末)

5 考察

「こころの見広シート」の活用を通して、自己のよりよい生き方について考えさせることを目指した。「シート」は、上から下へと自分の考えが見え、他者の多様な感じ方、考え方に触れる活動により物事の見方が広がり、自分を見つめられるように項目を分けて構成した。特に、「シート」を活用して導入時で考えた「友情」について、展開後段でもう一度「友情」について考えることで、考えの変容も「見える」ようになった。展開前段では、中心発問に対する考えを多面的・多角的に捉え、他者の多様な考えに触れることで、自分の考えと他者の考えを比較でき、友情についての考えが「広がる」ことができた。終末では、今後の自分の生活を関連付けて考えさせることで「自分を見つめる」ことができた。このように「シート」を活用することで、「友情」について、他者の多様な考えを基に捉え直し、自分の生活を振り返ることで自己のよりよい生き方について考えることができた。

6 資料

「こころの見広シート」

